

平成27年 第3回 神経・筋疾患ケアセミナー 「神経・筋疾患患者の排泄援助」



平成28年2月13日(土) 第3回神経・筋疾患ケアセミナーが開催されました。今回のテーマは「神経・筋疾患患者の排泄援助」で、豊中市内および近隣地区の保健所、訪問看護ステーションなどの事業所に勤務し、神経筋疾患患者のケアに関わっている介護士さんや訪問看護師さん等を対象に、施設や在宅で効果的な排泄援助が実践できることを目的に開催しました。

セミナーでは、当院薬剤師による「緩下剤や整腸剤等」について、当院管理栄養士による「栄養と排便コントロール」について、刀根山訪問看護ステーション長濱所長による「在宅における排泄援助の実際」についての講義とディスカッションを行いました。また、刀根山病院 佐古田院長による「腸内細菌や腸内環境、小腸内細菌異常増殖症(SIBO)等」についての特別講演を行いました。

当日は院内外から46人もの参加者があり、活気のあるとても興味深いセミナーとなりました。

それでは、神経・筋疾患ケアセミナーの一部を紹介します。

薬剤師の視点からみた排便コントロール ～緩下剤と整腸剤のまめ知識～



刀根山病院 薬剤師

高畑 紀子 先生



Ⅱ、マグネシウム製剤 高マグネシウム血症に注意！

- 酸化マグネシウムやマグラックス、マグミットは、基本的には血中には移行しない
- 腸に水分をあつめ、便に水分を与えて排便を促す
- アルカリ性であり、胃酸を中和する作用がある
- 高齢者にも使用できる安全な薬！

↓

長期服用、腎機能障害のある方、ご高齢の方で
高マグネシウム血症が多数報告されています！

Ⅴグリセリン浣腸使用時の注意点

1. 立位で使用しない→最も適当な体位は左側臥位
2. 直腸内にストッパーが入り込まないように目視確認！
3. チューブの挿入する長さは5~6cmを目安に
4. 抵抗を感じたら無理に進めない

★長期連用は直腸穿孔のリスクを高めます

★使用前後に出血の有無を必ず確認！



<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11121000-tyakushokuhinkyoku-Soumuka/0000022381.pdf>

*緩下剤や整腸剤、漢方薬など薬剤の作用や副作用だけでなく、グリセリン浣腸使用時の注意点などについても教えて頂きました

栄養士の視点からみた排便コントロール

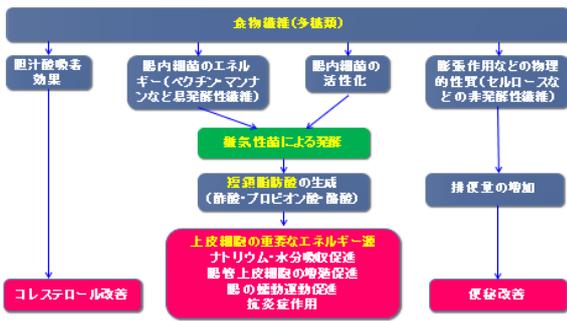


刀根山病院 管理栄養士

森住 蘭 先生



食物繊維の発酵と整腸作用



経腸栄養患者の下痢対策

3. 細菌による汚染

◆栄養剤の汚染

◆ボトルやチューブの汚染

栄養剤の細菌汚染は6~8時間以上になると急激に増加。

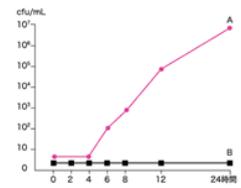
下痢の発生の要因となる。

↓↓

8時間毎に栄養剤と使用器具を交換する。

経管チューブは2週間~1か月を目途に交換する。

患者さんに留置している側のチューブ!!



大森有希: 経腸栄養剤と汚染汚染
Nutrition Support Journal, 1: Q, 2000

* 「不規則な食事・生活」「食物繊維・水分・脂質などの摂取不足」「低栄養」「ビタミン欠乏症」など、便秘を引き起こす腸管の機能的異常の要因や、食物繊維の発酵と整腸作用、経腸栄養患者の下痢対策などについて教えて頂きました。

在宅における排泄援助の実際



刀根山訪問看護ステーション 所長

長濱 あかし 先生



排便ケアに必要な技術

- 本人のお腹に合わせた排便回数の見極め
- 服薬の調整: 服用量、時間(訪問に合わせた時間)
- 浣腸の使用法: 1回で全部入れず、便の下降状態を見ながら。2回3回に分けてもアリ!
- 上手な摘便: 残さないように・・・後で大変。
- 腹部触診での、ガス、便の貯留状態の確認。腹部マッサージや便意を催す刺激方法の取得
→ 排尿促進刺激が有効
- 便の出やすい運動(リハビリを兼ねて): 時間を有効に使用する。
- 本人に残便感を確認する。
- 丁寧な、ケアでリネン類を汚染しない。

何時出ても良い・・・介護体制の充実した施設とは違う

在宅での排便ケア

- 看護師訪問時に、ちゃんと排便を行う。
⇒ 依頼された仕事を達成する。
- 浣腸を行ったら、浣腸液を最後まで出しきる。
↓
- 介護者に大きな仕事を残さない。
排便後のオムツ交換は、介護者には大きな負担である。

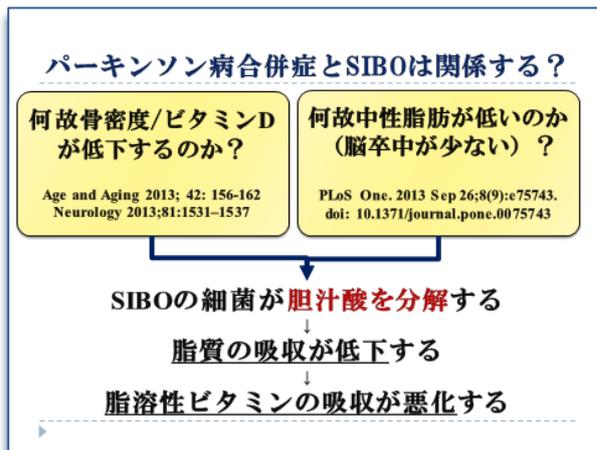
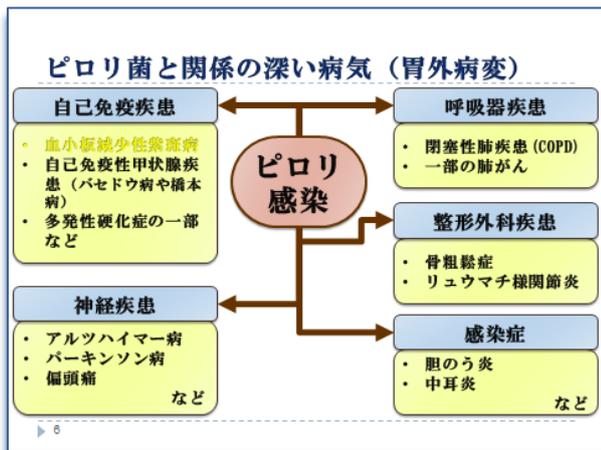
* 排便ケアに必要な技術や在宅での排便ケアなど、排泄援助の実際について教えて頂きました。

特別講演 ～小腸に細菌が増殖する病態について～



刀根山病院 院長

佐古田 三郎 先生



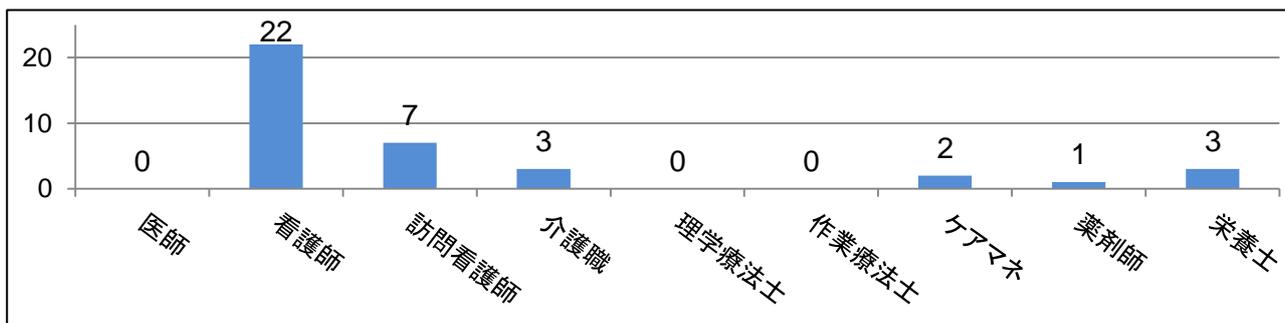
*ピロリ菌と全身疾患の関係や、SIBO (小腸内細菌異常増殖症) など、大変興味深い講演でした。



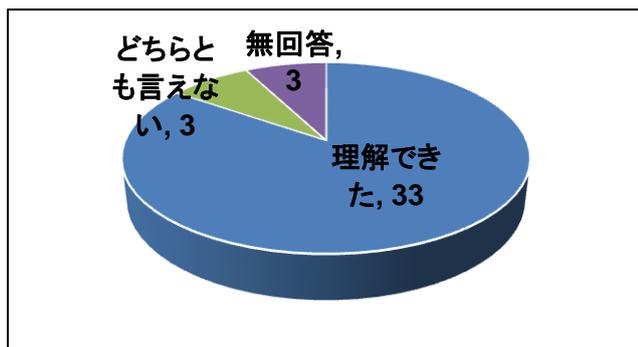
アンケート結果および参加者から意見

アンケート回収数：39名/46名

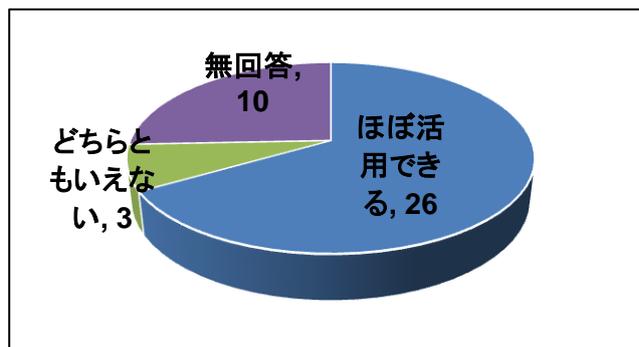
参加者職種



講演内容について



在宅看護での活用について





セミナーについてご意見・感想

- 緩下剤に対する知識が増えた
- 薬に目がいきがちであるが、食事にも目を向けていきたい
- 緩下剤と注入食を見直し、考えるきっかけになった
- 訪問看護時に排便が終わるように工夫している点がとても参考になった
- 在宅看護での排便ケアについて、訪問看護師ならではの話が聞けて勉強になった
- SIBOの話はとても興味を持てた
- 佐古田院長の話が楽しかった
- 排泄援助は日常的に多く、慣行で行いがちであるが、一つ一つ追究すると奥が深く、コントロール難渋症例にもまだまだできることがあると感じた
- 食事や薬、色々なことをアセスメントして指導していきたい



など、たくさんの意見や感想をいただきました。

今回のセミナーを受講されたことによって、患者さまが少しでも安楽に排泄できるように、そして、参加された方々が臨床で使用できれば幸いです。

刀根山病院スタッフ一同